

中国における『資本論』の受容過程についての一考察

——陳啓修の日本滞在と翻訳術語の継承——

盛 福 剛

I は じ め に

日本で最初の『資本論』全訳は高島素之によってなされ、1920年から「マルクス全集」第1～第10冊として大鐙閣・而立社より刊行された¹⁾。翻訳の底本について高島は、同書第1冊の「訳者序」の中で、「私の此の翻訳は原文第六版に依り、傍ら英訳本を参照にした」²⁾（高島訳1920, 3）と述べている。高島訳は新潮社の全面改訂訳（1925年10月～1926年10月、全4冊）を経て、改造社（1927年10月～1928年4月、全5冊）より出版されるようになった。改造社版は高島訳の決定版であり、戦前『資本論』翻訳の定本となった。

1927年8月、河上肇は岩波茂雄から依頼されて文庫版『資本論』の翻訳を引き受け、改造社の高島版との競争もあったため、出版を急いで10月に宮川実との共訳³⁾の第1分冊が岩波文庫より刊行された。翻訳の底本について、河上肇は第1分冊の「邦訳への序言」において次のように記した。

翻訳の台本となしたるものは、カウツキーの普及版（Volksausgabe, herausgegeben von Karl Kautsky, Stuttgart, 1921）であり、高島素之氏の使用されたるものと異なる。

（河上・宮川訳1927, 6）

1928年に河上と岩波の関係が悪化したため、文庫版『資本論』の出版は第1巻第5分冊までで中断された。その後、この翻訳は1931年に改造社から出されることになったが、時局が厳しさを増したために、結局第1巻上冊だけが刊行されることになった。

-
- 1) 当初高島は、福田徳三の門下生たちと共同で翻訳をおこなうこととして諒承したが、彼らが途中で翻訳を放棄したため、結局高島が『資本論』全3巻を独力で翻訳することになった。
 - 2) 高島素之訳。1920.『第4版 マルクス全集 資本論 第1巻 第1冊』大鐙閣。以下、この日本語訳を「高島訳」と略記する。
 - 3) 河上肇・宮川実訳。1927.『マルクス 資本論 第1巻 第1分冊』岩波書店。以下、この日本語訳を「河上・宮川訳」と略記する。

さて、中国最初の『資本論』翻訳は陳啓修によってなされ、1930年3月に上海の崑崙書店より『資本論第1巻第1分冊—第1篇』⁴⁾というタイトルで公表された。陳啓修の「訳者例言」によれば、「翻訳の原本はカウツキー民衆版⁵⁾の第8版（1928年版）、ベルリンのJ. H. W. Dietz Nachf. G.m.b.H.より発行されたドイツ語版である」（陳訳1930, 1）。中国における『資本論』の普及史の起点は、この民衆版であった。陳啓修は当初「この本を十冊に分けて出版する」（陳訳1930, 3）ことを計画したが、第1篇第3章までを含む第1分冊だけが刊行され、残りの計画は実現されなかった。

本稿では、次の二つの問題に照明を当てる。

第1は、陳啓修版の翻訳の底本についてである。陳啓修は「訳者例言」の最後に「東京にて、1, 1930」（陳訳1930, 6）という日付を記した。陳訳は東京において訳出されたのであるが、上述の日本語訳からどの程度の影響を受けたのであろうか。筆者は陳訳と日本語訳の関係を検討した結果、陳訳は日本語訳を底本として、カウツキーの民衆版を参照しながら訳出されたものであり、河上・宮川訳版の事実上の重訳である、と推定する。本稿の第1章と第2章は、この推定の論拠をあげる。

第2は、中国のマルクス主義普及の初期における翻訳術語の日本語訳からの借用および現代訳への継承関係である。本稿第3章および第4章において、中国のマルクス主義普及の初期における日本および日本人思想家の関与を取り上げ、翻訳術語における日本語訳からの借用および現代訳への継承状況を論じる。

II 日本語訳の陳訳への影響

陳啓修は1930年に東京で作成した「訳者例言」において、日本語訳の参照状況について次のように述べている。

訳者はできる限りの範囲で、主に河上・宮川訳の日本語抄訳を参照したほか、必要に応じて次の訳本も参照した。（一）J. Molitor の仏訳（Paris, alfred Costes 発行、1924年版）、（二）Samuel Moor と Edward Aveling の英訳（Chicago, Chaeles H. Kerr 発行、1921年版）、（三）高島素之の日本語訳（東京、改造社発行、1927年版）。（陳訳1930, 2）

陳訳と日本語訳がどのような関係にあるのかは、日中両国において研究の空白部分であり、こ

4) 馬克思著、陳啓修譯。1930.『資本論 第1巻 第1分冊—第1篇』、上海：崑崙書店。下記の引用文は筆者による翻訳である。以下、この中国語訳を「陳訳」と略記する。

5) Marx/Engels. 1928. *Das Kapital: Kritik der politischen Ökonomie*, 1 Band 1 Buch. Herausgegeben von Karl Kautsky, Volksausgabe. Berlin und Stuttgart: J. H. W. Dietz Nachf. G.m.b.H. 河上肇は「邦訳への序言」で“Volksausgabe”を「普及版」と表記したが、以下では、「民衆版」と略記する。

れまで明らかにされてこなかった。本稿では、訳注と翻訳術語の検討を通じて、陳訳と二つの日本語訳の関係を考察する。

1. 訳注の事例

訳注とは、読者の訳文理解を助けるために翻訳者がつける注釈のことである。翻訳者が異なれば、訳注も異なったものになる。したがって訳注を比較すれば、陳が参照した訳本を特定できよう。陳訳の訳注には、訳語に関するものと人名・地名に関するものの2種類がある。訳語に関する訳注の例としては、民衆版の4ページ、“abstrahieren”に関する訳語があげられる。なお、以下の訳注や翻訳術語の事例における太字の箇所は、筆者によるものである。

Abstrahieren wir, sehen wir ab von seinem Gebrauchswert, so **abstrahieren** wir auch von den körperlichen Bestandteilen und Formen, die es zum Gebrauchswert machen. (民衆版 1928, 4)

我々が労働生産物の使用価値から**抽象**するのは、同時に又労働生産物を使用価値たらしめる諸々の有形的成分及び形態から抽象する所以である。 (高畠訳 1920, 7)

吾々がもし労働生産物の使用価値を**抽象**し、それを度外視するならば、吾々は労働生産物を使用価値たらしむるところの・物的な諸構成部分および物的な諸形態をもまた抽象するのである。 (河上・宮川訳 1927, 42)

如果我們把牠的使用價值**捨象**了去【捨象是 abstrahieren 的譯語；這個字又可以譯成抽象，因為抽象原是捨象的反面；在德語裏面，要看上下文才能夠決定到底應該譯成抽象或捨象——陳】，如果把牠的使用價值置諸度外，那末，我們同時就會變成把那些使勞動生產物成為使用價值的種種體質的構成部份和形態，也都捨象了去，置諸不顧。 (陳訳 1930, 7)

高畠訳と河上・宮川訳は“abstrahieren”を「抽象」と訳した。陳はそれを「捨象」と訳し、「捨象は abstrahieren の訳語であり、この語はまた抽象とも訳され、抽象は捨象の反面でもあり、ドイツ語の文脈により、訳語を決める」という訳注をつけた。ここに陳は文脈により、“abstrahieren”を「捨象」と「抽象」とに訳し分け、日本語訳とは異なる理解を示している。

しかし、河上・宮川訳の第2分冊の末尾には、「第一分冊における主なる訂正」が付されており、その中に「抽象」に関連する以下の訂正指示がある。

四二頁—十二行目および一三行目，四十三頁—十三行目，五六頁—四行目，五八頁—五行目，六七頁—七行目，九六頁—六行目にある『抽象』を『捨象』に改む。

(河上・宮川訳 1927, 付録 IV)

訂正指示がなされている箇所は、陳訳ではすべて「抽象」ではなく、「捨象」と訳されている。“abstrahieren”の訳語に関する陳の理解は河上・宮川訳の訂正指示から生まれたことが推察できよう。つまり陳は、河上・宮川訳の訂正指示まで十分に参照しながら翻訳を進めたのであろう。しかし、この事例だけでは、陳が高畠訳よりも河上・宮川訳を参照したとみなすには十分ではな

い. そこで次に、翻訳術語の参照状況を見ることにしよう.

2. 翻 訳 術 語

日本語訳と陳訳の関係を徹底的に調査するために、『資本論』第 1 篇について、MEGA² 第 II 部門第 8 巻 Apparat の“Sachregister (件名索引)”にあげられた経済学用語を選び、民衆版、高畠訳、河上・宮川訳、陳訳、現代訳の大月訳⁶⁾と編訳局訳⁷⁾での翻訳術語について比較表を作成した. 全体の比較表は本稿の付録として添付するが、ここでは接尾語“-mittel”に関連する術語について例示する.

表 1 “-mittel”の翻訳術語

頁-行	民衆版 (1928)	高畠訳 (1920)	河上・宮川訳 (1927)	陳訳 (1930)	大月版 (1965)	編訳局訳 (2004)
42-06	Produktionsmittel	生産機関	生産手段	生産手段	生産手段	生产资料
42-15	Lebensmittel	生活資料	生活資料	生活資料	生活手段	生活资料
64-36	Zirkulationsmittel	流通用具	流通手段	流通手段	流通手段	流通手段
74-28	Kaufsmittel	購買用具	購買手段	購買手段	購買手段	购买手段
85-21	Zahlungsmittel	支払用具	支払手段	支払手段	支払手段	支付手段

番号、たとえば「42-06」は、それがカウツキー民衆版の 42 ページ 6 行目にあらわれる術語であることを意味する. 現代の中国語訳は“**Produktionsmittel**”と“**Lebensmittel**”をそれぞれ「生産資料」および「生活資料」と訳し、ほかの“-mittel”を「一手段」と訳したのに対して、大月訳は“-mittel”を「一手段」に統一した. 高畠訳は「生産機関」と「生活資料」のほか、“-mittel”を「一用具」と訳した. 陳訳において“-mittel”は基本的に「一手段」と訳されるが、“**Produktionsmittel**”は「生産手段」, “**Lebensmittel**”は「生活資料」と区別して訳されており、河上・宮川訳と同じである. 陳訳が河上・宮川訳を参照したからこそ、同じドイツ語の接尾語“-mittel”に対する「一手段」と「一資料」という訳語の区別を引き継いだと考えるのが合理的であろう.

この他にも多くの術語で陳訳は河上・宮川訳と共通し、高畠訳とは異なるから、陳は河上・宮川訳をこそ注意深く参照したのであった.

III 陳訳の底本について

このような両者の類似は、陳訳において、カウツキーの民衆版は翻訳底本というよりも参照さ

6) 大内兵衛・細川嘉六監訳. 1965.『マルクス=エンゲルス全集 23a 資本論 第 1 巻 (上)』大月書店. 以下、この翻訳を大月版と略記する.

7) 中共中央マルクス・エンゲルス・レーニン・スターリン著作編訳局訳. 2004.『資本論 第 1 巻』, 北京: 人民出版社. 以下、この翻訳を「編訳局訳」と略記し、第 IV 節の中で、現代中国語訳の代表として、現行の編訳局訳を取り上げる.

れたものに過ぎず、むしろ実質的な翻訳底本とは、河上と宮川による日本語版であることを示してはいないだろうか。そこで次では、河上・宮川訳と陳訳との関係をさらに立ち入って検討してみよう。なお、以下では参考のために最近の日本語訳と中国語訳も挙示した。

1. 河上・宮川訳の誤訳の踏襲

筆者は、河上・宮川訳の誤訳または不適切な訳語を取り出して、陳訳および現代の中国語訳と比較した。上述のように、陳訳は河上・宮川訳に即して訳出されたものとすれば、河上・宮川訳が誤っている箇所は、陳訳もまた誤っているはずである。

Die Gebrauchswerte der Waren liefern das Material einer **eigenen** Disziplin [Lehrzweigs] der Warenkunde. (民衆版 1928, 4)

商品の使用価値は、商品といふ**特殊なる**一学科の材料を供給する。

(河上・宮川訳 1927, 39)

商品的使用價值，對於一種叫商品學的**特殊**學科，供給着材料。 (陳訳 1930, 3)

いろいろな商品のいろいろな使用価値は、一つの**独自の**学科である商品学の材料を提供する。

(大月版 1965, 48)

商品的使用价值为商品学这门学科提供材料。

(編訳局訳 2004, 48)

“einer **eigenen** Disziplin [Lehrzweigs] der Warenkunde” について、“**eigen**” は「自分自身のもの、独自の、独自なる」という意味であるのに、河上・宮川訳はそれを「**特殊なる**」と誤訳した。しかし、陳訳は河上・宮川訳の誤訳ないし不適切な訳語をも踏襲しているのである。

続いて人名の誤訳に関する事例を見よう。

Jacob bezweifelt, daß Gold jemals seinen vollen Wert bezahlt hat. (民衆版 1928, 8)

ヤコブは、金が嘗つてその完全な価値を支払はれたことがあるかどうかを疑っている。

(河上・宮川訳 1927, 47)

雅可布懷疑着，金子是不是曾經照牠的完全的價值被支付過。 (陳訳 1930, 12)

哲科布 (Jacob) 猜想金也許從來不會依照充分的價值來支付⁸⁾。 (郭・王訳 1953, 12)

ジェーコブは、金にその全価値が支払われたことがあるかどうかを疑っている。

(大月版 1965, 54)

杰科布怀疑金是否按其全部价值支付过。

(編訳局訳 2004, 53)

ここでマルクスが言及した文献は、1831年にロンドンにおいて出版された『貴金属の生産と

8) 郭大力・王亜南訳。1953.『資本論 政治経済学批判 第1巻』，北京：人民出版社。以下、この翻訳を「郭・王訳」と略記する。郭・王訳は最初に1938に上海讀書生活出版社より出版され、53年版は38年版の改訂版である。

消費に関する歴史的研究所』であり、著者はウィリアム・ジェーコブである。“Jacob”はイギリス人であるから、日本語訳に際しては、その名前はドイツ語読みの「ヤコブ」ではなく、英語読みの「ジェーコブ」と表記すべきであろう。しかし、陳訳は中国語訳に際して“Jacob”を、英語読みの音訳「哲可布」か「杰可布」ではなく、日本語読みの音訳「ヤコブ」から「雅可布」とした。これは河上・宮川訳に依拠したことによる誤訳であろう。

2. 人名、地名に関する訳注の踏襲

人名および地名に関する訳注を見よう。マルクスの論述にはしばしばギリシャ神話やシェイクスピアの戯曲が引用される。例として、民衆版の第3章「貨幣と商品流通」における次の記述があげられる。

Dieser Widerspruch zwischen der quantitativen Schranke und der qualitativen Schrankenlosigkeit des Gelds treibt den Schatzbildner stets zurück zur **Sisyphusarbeit** [zur endlos sich erneuernden Arbeit] der Akkumulation der Ansammlung und Aufspeicherung von Gold und Silber.

(民衆版 1928, 91)

陳は“**Sisyphusarbeit**”を説明するために、次の訳注を本文テキストに挿入した。

這種存於貨幣的量的限度和質的無限性之間的矛盾，會驅使貨幣蓄藏人不斷的從事於積聚〔Akkumulation〕的西悉夫〔Sisyphé〕【西悉夫是希臘的一個貪財的國王。他死後被罰在地獄做苦工，做運石上山的工作，但是，因為他所運的石一到山上就會落下來，所以他不得不反覆不斷的做那種無限的工作。所以西悉夫式工作就是指那種永久不完的同工作說的。——陳】式的勞動。

(陳訳 1930, 208)

この訳注の最後に「陳」という名前があるので、陳啓修独自の訳注であるかのように見える。ところが、同じ訳注が河上・宮川訳版にも付されている。

貨幣の量的限度と質的無限性との間のかかる矛盾は、蓄藏者を驅つて、蓄積のシンフスの労働^{九三 a}に向はしむる。

(九三 a)〔シンフスといふのはギリシャの貪欲な一国王である。彼は地獄において刑罰として、石を山上に運んでそこに安置する仕事に命ぜられたが、石は山上に運ばれると直ちに顛落し、従つてシンフスは同じことを繰り返し行はねばならなかつた。——訳者〕。

(河上・宮川訳 1927, 222)

陳は河上・宮川訳の訳注をほとんどそのまま訳出している。両者の相違は、陳啓修が日本語訳の「訳者」を「陳」に変えたほか、「所以西悉夫式工作就是指那種永久不完的同工作說的（シシュフォス労働は繰り返し続く労働のことを指す）」という結語を加えた点にあるに過ぎない。

3. 小 括

以上から、1930年に出版された陳訳の『資本論』の底本は、実質的には、1927年に岩波書店より刊行された河上・宮川訳の『資本論』第1分冊と第2分冊であり、カウツキーの民衆版は必要に応じて参照されたと見るのが妥当である、といっても過言ではないであろう。

IV 来日中国人留学生と中国でのマルクス主義普及の黎明期

上述のように、陳啓修は1930年の初めに東京で日本語訳を底本としてドイツ語版の民衆版をも参照しながら、中国最初の『資本論』の翻訳を仕上げた人物であり、相当高い日本語能力を持っていたと考えられる。ここでは、陳啓修の来日歴、河上肇との関わりについて概観する。

1. 陳啓修と日本

陳啓修（1886～1960年、四川省中江人で、別名に陳豹隱、筆名に陳勺水、陳惺農などがある）は、1905年（1907年説もある）に来日し、旧制第一高等学校予科で日本語を学んだあと、1913年に東京帝国大学法学部の政治科に入学した。1917年に東京帝国大学を卒業した後、蔡元培の招聘で北京大学法科教授、政治学研究所主任となった。1923年に大学からヨーロッパ視察に派遣され、1925年に帰国して国民革命に参加、広州の黄埔軍官学校や農民運動講習所の教員、国立中山大学法学科科務主席、経済学部主任、武漢『中央日報』の編集長等を歴任した。1927年に第一次国共合作による国民革命が失敗した後、日本に亡命し、北京大学教授に復帰する1930年までの間に、日本で中国最初の『資本論』の翻訳に従事したのである。

新中国成立後の陳啓修は、重慶大学商学部長、重慶財經学院総長、四川財經学院学術委員会委員を歴任した、そして、『資本論』の翻訳・研究における業績により、1965年に陳岱孫とともに、経済学の「一級教授」と認定・表彰されている。

2. 陳啓修と河上肇

1930年前後東京で『資本論』を翻訳した陳啓修は、日本語訳の入手や訳語を検討する際に、多くの援助を得たことであろう。三田剛史の研究では、1920年代に日本のマルクス文献を中国に初めて紹介した陳啓修などの来日留学生は、日本のマルクス主義研究の集大成者である河上肇と直接的な関わりがあるという⁹⁾。筆者は京都大学経済学部から公刊された『河上肇文庫目録』

9) 三田剛史。2003。『甦る河上肇—近代中国の知の源泉』藤原書店、358。三田剛史と注12で述べる劉南燕の研究は、「訳者例言」にもとづき、陳訳が日本語訳を参照して訳出されたものである、と言及している。しかし、両者ともに、陳訳の実質上の底本の問題や、翻訳上の術語の選択における陳訳への日本語訳の影響関係を考察していない。本稿はこの点の解明に取り組むものである。

の中に、陳啓修から河上肇へ献辞を添えて贈られた 2 冊の本を確認することができた。

資本論 第 1 巻第 1 分冊第 1 編

馬克思 (Marx, K.) 著 陳啓修 譯

上海 崑崙書店 民国 19 (1930) 6, 190, 236P B6

見返し：呈 河上先生 教正乞高評 陳啓修謹贈 30. 4. 23

経済学大綱

陳豹隱 譯 上海 楽群書店 1929 年 597P B6

見返し：呈 河上先生指正 陳豹隱 1929. 5. 8. 於東京本郷公属

窓下：訳者の訂正記入¹⁰⁾

陳啓修が河上肇の『経済学大綱』を翻訳したのは 1929 年であり、『資本論』の翻訳より 1 年前であった。陳は『経済学大綱』の「あとがき」の中で、「この本は大学の経済学原理の教科書として、実に世界一の良書である」¹¹⁾と河上の著作を高く評価している。『経済学大綱』を翻訳したことが翌年の『資本論』翻訳の仕事につながったのであろう、と筆者は推測する。

「一高時代に、フランス語を独学すると同時にドイツ語と英語も学習した」¹²⁾ 陳啓修は、「5ヶ国の外国語が掌握できる」といわれているが、『資本論』のような経済学の専門書を翻訳するには、相当に高いドイツ語能力が求められる。言語能力を一つの要因として、日本で通算 15 年生活した陳啓修は、中国語版の『資本論』を一知半解のドイツ語版から直接に中国語に翻訳するのではなく、河上・宮川訳版から重訳することにしたと考えられる。

陳啓修は献辞において河上肇を「河上先生」と呼び、中国国内でも陳はしばしば「日本留学中に河上肇に師事した人物」と紹介されている。しかし日本国内には、陳が河上に師事した学生であったことを証明する史料がない。陳が 1927 年に日本へ亡命した時も、その翌年に河上は京都大学経済学部を退職しているので、直接に彼のもとで学んだとは考えにくい。しかし、陳は河上肇の中国人の弟子である杜国庠——杜は陳の一高時代の知人であり、丙辰学社でも陳の同僚となった——を通じて河上肇を知り、河上の諸著作を学んだ可能性が高い。

V 翻訳術語における陳訳および現代中国語訳『資本論』への日本語訳の継承

陳訳が公刊された 1930 年の中国では、西欧や日本と較べて近代工業の発展が遅れていたため、当時中国語には存在しなかった近代的工業・商業用語が存在した。そうした時代にあって、翻訳

10) 京都大学経済学部編. 1979.『河上肇文庫目録』京都大学経済学部, 103.

11) 陳豹隱 譯. 1929.『経済学大綱』, 上海：楽群書店.

12) 劉南燕. 2003.「陳啓修—最初に『資本論』を中国語に翻訳した人物 (上)」『前進論壇』(中国工農民主党) (9): 31-35.

に際して河上・宮川訳を事実上の底本にして訳出された陳訳の『資本論』では、日本語の術語が多数採用されたことが、推察される。では、陳訳の『資本論』を通して中国語に入った日本語の術語は、中国語版の現代訳『資本論』にはどのように引き継がれたのか。これを解明するために、前述の術語比較リストからいくつかの術語を取り出して検討したい。

表2 翻訳術語比較表・部分

頁-行	民衆版 (1928)	高島訳 (1920)	河上・宮川訳 (1927)	陳訳 (1930)	大月版 (1965)	編訳局訳 (2004)
6-13	Gallerte	凝 結	膠質物	膠質物	凝固物	凝 結
6-31	wertbildende Substanz	価値形成実体	価値を形成する実体	價值形成實體	価値を形成する実体	形成价值的实体
6-40	dieselbe menschliche Arbeitskraft	一様なる人間の労働力	同一なる人間の労働力	同一的人類の勞動力	同じ人間労働力	同一的人类劳动力
64-36	Zirkulationsmittel	流通用具	流通手段	流通手段	流通手段	流通手段
74-01	Umlauf	通 用	通 流	流 轉	流 通	流 通
81-21	Produktionskrise	生産上の恐慌	生産恐慌	生産恐慌	生産恐慌	生产危机
81-21	Handelskrise	商業上の恐慌	商業恐慌	商業恐慌	商業恐慌	商业危机
100-09	Maßstab der Preise	価格標準	価格の本位	價格の本位	價格の度量標準	价格标准

1. 河上・宮川訳と陳訳

表2から見られるように、日本語訳から陳訳に入った術語が、中国語としては定着せずに、より適切な訳語に替えられたものがある。例えば、陳訳は第1章の“wertbildende Substanz”を、日本語と同じく「価値形成實體」と訳した。周知のように、動詞＋目的語の動目構造詞においては、中国語と日本語の文法は正反対で、動詞を名詞の前に置く。ここでは、「価値形成實體」ではなく、編訳局訳のように「形成价值的实体」と訳すべきであろう。この箇所でも、陳がドイツ語を参照せずに、日本語訳に従って訳した可能性が高いことが確認される。

また、“Gallerte”の具体的な使用例“eine bloße Gallerte unterschiedsloser menschlicher Arbeit”について、直訳の「単なる人間の労働の膠質物」よりは「凝固物」か「凝結」の方が適訳であろう。そのかぎりでは不適切な訳語と言えるところではあるが、陳訳は河上・宮川訳と共通して、中国語には存在しない「膠質物」という訳語をあてた。

さらに、陳啓修は河上・宮川訳と同じく、“Maßstab”を「本位」と訳したが、編訳局訳は郭・王訳を継承して「標準」と訳している。“Produktionskrise”と“Handelskrise”の訳語についても、陳は日本語訳の「生産恐慌」と「商業恐慌」をそのまま採用しているのに対して、現代

中国語訳は“-krise”を「一危機」と訳している。

2. 日本語訳と現代中国語訳

『資本論』の術語“Austauschverhältnis”, “Gebrauchswert”, “Wertgegenständlichkeit”, “Wertausdruck”の翻訳について、陳訳は河上・宮川訳の訳語をそのまま採用し、「交換關係」、「使用価値」、「価値対象性」、「価値表現」とそれぞれ中国語に訳した。これら日本語から借用された術語は中国語に定着し、定訳として現代訳にも活かされていることが少なくない。

1938年に中国で最初の『資本論』の全訳が郭大力・王亜南によって翻訳され、上海読書生活出版社より出版された。郭・王訳はドイツ語版から翻訳されたものであるが、現行の編訳局訳はこの郭・王訳をもとにして改訳されたものである。ところが、日本語訳の郭・王訳への影響は依然として濃厚である。次の事例を見よう。

河上・宮川訳は、“Umlauf”を“Zirkulation”と区別するために、「通流」という訳語を作ったが、陳訳もそれに対応して“Umlauf”を「流通」ではなく「流轉」と訳した。郭・王訳は陳訳の術語は採らずに、河上・宮川訳と同じく“Zirkulation”を「流通」、 “Umlauf”を近代中国語になかった「通流」と訳し分けた。“Umlauf”の翻訳において、郭・王訳は日本語訳を参照したとみるべきであろう。大月版の日本語訳と現代中国語訳は、“Umlauf”と“Zirkulation”とを区別しておらず、いずれも「流通」と訳している。

VI 結 語

上述のように、1930年に上海崑崙書店より出版された最初の中国語版『資本論』訳本は、1927年に出版された河上・宮川訳版を事実上の底本としたものであり、日本語訳から多くの術語を受け継いでいる。つまり中国における『資本論』の普及史は、日本にその端を発している。

西洋の経済学用語が日本を経由して中国へ伝播したルートを究明することは、今後厳密な調査を必要とする課題であろう¹³⁾。

13) 周知のように、郭・王訳『資本論』の翻訳者の一人王亜南は陳啓修の同時代人であり、日本への留学経歴を持った人物である。彼による中国最初の『資本論』全3巻の翻訳には、日本語訳からの要素がどれほど含まれているのであろうか。この詳しい検討には、別稿を予定している。

表3 術語術語比較表

頁-行	民衆版 (1928)	高島訳 (1920)	河上・宮川訳 (1927)	陳訳 (1930)	大月版 (1965)	編訳局訳 (2004)
3-02	Ware	商 品	商 品	商 品	商 品	商 品
3-02	Geld	貨 幣	貨 幣	貨 幣	貨 幣	貨 幣
3-06	Gebrauchswert	使用価値	使用価値	使用價值	使用価値	使用价值
3-06	Wert	価 値	価 値	價 値	価 値	价 値
3-09	Warensammlung	商品集積	商品の集大成	商品集成	商品の集まり	商品堆积
3-10	Elementarform	成素形態	原基形態	始基形態	基本形態	元素形式
3-19	Gegenstand des Genusses	享樂の対象	享樂の対象	享樂的對象	受用の対象	消費品
3-21	nützliches Ding	有用物	有用物	有用物	有用物	有用物
3-26	geschichtliche Tat	歴史的事蹟	歴史的業績	歴史的行為	歴史的な行為	历史的事情
4-01	Warenmaß	商品尺度	商品尺度	商品尺標	商品尺度	商品尺度
4-03	Uebereinkommen	傳 習	合 意	合 意	習 慣	约定俗成
4-07	Warenkörper	商品体	商品体	商品體質	商品体	商品体
5-07	Gehalt	内 容	内 実	内 容	内 実	内 容
5-23	Tauschwert	交換価値	交換価値	交換價值	交換価値	交换价值
5-23	reduzieren	約元する	還元する	還 元	還元する	化 成
5-38	Atom	原 子	分 子	原 子	分 子	原 子
5-40	Arbeitsprodukt	労働生産物	労働生産物	勞動生産物	労働生産物	劳动产品
6-10	abstrahieren	抽象する	抽象する→捨象する	捨 象	捨象する	抽 象
6-13	Gallerte	凝 結	膠質物	膠質物	凝固物	凝 結
6-17	aufhäufen	堆積する	蓄積する	積 蓄	積み上げられている	积 累
6-19	Austauschverhältnis	交換関係	交換関係	交換關係	交換関係	交换关系
6-31	wertbildende Substanz	価値形成実体	価値を形成する実体	價值形成實體	価値を形成する実体	形成价值的实体
6-40	dieselbe menschliche Arbeitskraft	一樣なる人間労働力	同一なる人間の労働力	同一の人類の労働力	同じ人間労働力	同一的人类劳动力
6-46	gesellschaftliche Durchschnitts-Arbeitskraft	社会的平均労働力	社会的平均労働力	社會的平均勞動力	社会的平均労働力	社会平均劳动力
7-04	gesellschaftlich notwendige Arbeitszeit	社会的に必要な労働時間	社会的に必要な労働時間	社會的必要的勞動時間	社会的に必要な労働時間	社会必要劳动时间
8-33	gesellschaftlicher Gebrauchswert	社会的使用価値	社会的使用価値	社會的使用價值	社会的使用価値	社会的使用价值
9-01	Doppelcharakter	二重性質	二重性	二重性	二重性	二重性
9-02	Zwieschlächtiges	二重物	二者闘争物	二者鬥爭物	二面的なもの	二重的东西
9-18	nützliche Arbeit	有用労働	有用労働	有用勞動	有用労働	有用劳动
9-31	gesellschaftliche Teilung der Arbeit	社会的分業	社会的分業	社會的分業	社会的分業	社会分工
10-23	Stoffwechsel	代謝機能	物質代謝	質料代謝	物質代謝	物质变换
11-43	einfache Durchschnittsarbeit	単純なる平均労働	單純なる平均労働	單純的平均勞動	單純な労働	简单平均劳动

頁-行	民衆版 (1928)	高島沢 (1920)	河上・宮川沢 (1927)	陳沢 (1930)	大月版 (1965)	編訳局沢 (2004)
11-45	kompliziertere Arbeit	複雑なる労働	複雑労働	複雑労働	複雑な労働	复杂劳动
13-06	Arbeitstag	日数の労働時間	労働日	労働日	労働日	工作日
14-01	Wertform	価値形態	価値形態	價值形態	価値形態	价值形式
14-08	Wertgegenständlichkeit	価値対象性	価値対象性	價值對象性	価値対象性	价值对象性
15-23	relative Wertform	相対的価値形態	相対的価値形態	相對的價值形態	相対的価値形態	相对价值形式
15-24	Aequivalentform	等価形態	等価形態	等價形態	等価形態	等价形式
17-02	Wertding	価値物	価値物	價值物	価値物	价值物
17-03	Wertsein	固有の価値性	価値実在	價值存在	価値存在	价值存在
17-18	Wertabstraktion	価値抽象	価値としての抽象 (捨象)	價值捨象物	価値抽象	价值抽象
18-27	verkörperter Wert	体现された価値	体化された価値	體質化した價值	具体化された価値	物体化的价值
18-27	Wertkörper	価値物体	価値体	價值體	価値体	价值体
18-47	Umgang	交 通	交 通	交 通	交わり	交 往
19-15	Wertverhältnis	価値関係	価値関係	價值關係	価値関係	价值关系
19-21	relativer Wert	相対的価値	相対的価値	相對的價值	相対的価値	相对价值
22-28	Wertgleichung	価値方程式	等価方程式	價值方程式	価値等式	价值等式
24-32	abstrakte menschliche Arbeit	抽象的人間労働	抽象性における人間労働	捨象の人類労働	抽象的人間労働	抽象价值劳动
25-41	Festigkeit eines Volksvorurteils	一般人民の先入の見	国民的信念の固定性	國民的信念的固定性	民衆の先入見	国民的牢固的成见
26-04	einfache Wertform	単純価値形態	簡単な価値形態	簡單的價值形態	單純な価値形態	简单价值形式
27-04	Wertgestalt	価値の姿	価値の姿	價值姿態	価値の姿	价值形态
27-23	Metamorphose	変 化	変 態	變 形	変 態	形态变化
28-06	entfaltete relative Wertform	拡大したる価値形態	拡大されたる相対的価値形態	擴大了的價值形態	展開された価値形態	扩大的相对价值形式
29-03	Austauschverhältnis	交換比例	交換比率	交換的比率	交換割合	交换比率
29-06	Wertkörper	価値体	価値体	價值體質	価値体	价值体
30-02	Warenbesitzer	商品所有者	商品所有者	商品所有人	商品所持者	商品占有者
30-08	allgemeine Wertform	一般的価値形態	一般的価値形態	一般的價值形態	一般的価値形態	一般价值形式
31-21	gesellschaftliches Dasein	社会的な存在	社会的な定有	社會的存在	社会的な定在	社会存在
31-35	allgemeines Aequivalent	一般的等価	一般的等価物	一般等價物	一般等価物	一般等价物
31-39	Privatarbeit	私的労働	私的労働	私的勞動	私的労働	私人劳动
32-07	unterschiedlose menschliche Arbeit	無差別な人間労働	無差別な人間労働	無差別の人類労働	無差別な人間労働	无差别人类劳动
32-41	totale Wertform	總体的価値形態	總体的価値形態	總計的價值形態	全体的価値形態	总和的价值形式
33-06	Warenwelt	商品界	商品世界	商品世界	商品世界	商品世界
34-04	gesellschaftliches Monopol	社会的独占権	社会的独占	社會的獨占	社会的独占	社会独占权

頁-行	民衆版 (1928)	高島沢 (1920)	河上・宮川 (1927)	陳沢 (1930)	大月版 (1965)	編訳局沢 (2004)
36-41	Fetischismus	魔術性	物神崇拜	物神崇拜	呪物	拜物教
37-09	gesellschaftliche Gesamtarbeit	社会的総労働	社会的総労働	社會的總勞動	社会的総労働	社会总劳动
37-25	doppelter gesellschaftlicher Charakter	二重の社会的性 質	二重の社会的性 質	二重の社會的性 質	二重な社会的性 格	二重的社会性质
38-26	Produkten- austauscher	生産物の交換者	生産物の交換者 たち	生産物的交換者 們	生産物交換者	产品交换者
42-06	Produktionsmittel	生産機関	生産手段	生産手段	生産手段	生产资料
42-15	Lebensmittel	生活資料	生活資料	生活資料	生活手段	生活资料
46-08	Wechselkurs	為替相場	為替相場	匯兌行情	為替相場	匯率
47-20	Austausch- prozeß	交換行程	交換過程	交換進程	交換過程	交换过程
48-01	Privateigentümer	私有権者	私有権者	私有權所有人	私的所有者	私有者
48-18	das Konkrete	具体性	具体性	具象的感覚	具体的なもの	具体属性
56-02	Warenzirkulation	商品流通	商品流通	商品流通	商品流通	商品流通
56-05	Geldware	貨幣商品	貨幣商品	貨幣商品	貨幣商品	货币商品
56-20	Wertausdruck	価値表章	価値表現	價值表現	価値表現	价值表现
56-21	Preis	価 格	価 格	價 格	価 格	价 格
58-10	Verdoppelung des Wertmaßes	価値尺度の複本 位制	価値尺度の二重 化	價值尺度的兩重 化	価値尺度的二重 化	价值尺度的二重 化
59-04	Maßeinheit	測度単位	尺度単位	尺標單位	度量単位	计量单位
59-07	Maßstab	測度標準	本 位	本 位	度量標準	标 准
61-20	Taufname	法定名	洗礼名	洗禮名	洗礼名	教名
64-12	Transsubstantiation	變質作用	化 体	變體作用	化 体	变 体
64-36	Zirkulationsmittel	流通用具	流通手段	流通手段	流通手段	流通手段
64-37	Metamorphose der Waren	商品の転形	商品の変態	商品的變形	商品の變態	商品的形态变化
74-01	Umlauf	通 用	通 流	流 轉	流 通	流 通
74-28	Kaufsmittel	購買用具	購買手段	購買手段	購買手段	购买手段
74-42	Konsumtion	消 費	消 費	消 費	消 費	消 費
77-37	Masse des zirkulier- enden Geldes	流通貨幣的分量	流通貨幣の数量	流通着的貨幣的 數量	流通する貨幣の 量	流通货币量
79-02	Durchschnittszahl der Umläufe	通用の平均の回 数	平均通流回数	平均流轉回数	貨幣の平均流通 回数	平均流通次数
79-03	Durchschnitts- geschwindigkeit des Geldumlaufes	貨幣通用の平均 速度	貨幣通流の平均 速度	貨幣流轉の平均 速度	貨幣流通の平均 速度	货币的平均流通 次数
80-18	Masse der Zirkulationsmittel	流通用具的分量	流通手段の数量	流通手段的數量	流通手段の量	流通手段量
81-21	Produktionskrise	生産上の恐慌	生産恐慌	生産恐慌	生産恐慌	生产危机
81-21	Handelskrise	商業上の恐慌	商業恐慌	商業恐慌	商業恐慌	商业危机
83-01	Wertzeichen	価値章表	商品章標	價值符號	価値章標	价值符号

頁-行	民衆版 (1928)	高島沢 (1920)	河上・宮川沢 (1927)	陳沢 (1930)	大月版 (1965)	編訳局沢 (2004)
83-07	Nationaluniform	国民的制服	国民的制服	國民的制服	国民的部面	国家制服
84-11	Goldsein	金実体	金の實在	金の存在	金存在	金存在
84-11	Goldschein	金假現	金の假象	金的外觀	金假象	金假象
84-16	Metalldasein	金属上の存在	金属としての定在	金属上的存在	金属定在	金属存在
85-09	Münzdasein	鑄貨存在	鑄貨としての存在	鑄幣的存在	鑄貨定在	铸币存在
85-15	Staatspapiergeld	国家紙幣	国家紙幣	國家紙幣	国家紙幣	国家货币
85-21	Zahlungsmittel	支払用具	支払手段	支付手段	支払手段	支付手段
88-19	Schatzbildung	貨幣の退藏	貨幣蓄藏	儲藏手段	貨幣蓄藏	货币儲藏
88-37	Schatzbildner	貨幣退藏者	貨幣蓄藏者	貨幣儲藏人	貨幣蓄藏者	货币儲藏者
91-23	Kaufmittel	購買用具	購買手段	購買手段	購買手段	购买手段
91-27	Akkumulation	蓄積	蓄積	積聚	蓄積	积累
95-34	vermitteln	欠沢	媒介	媒介	媒介する	中介
96-07	Geldkrise	貨幣恐慌	金融恐慌	金融恐慌	貨幣恐慌	货币危机
100-07	Weltgeld	世界貨幣	世界貨幣	世界貨幣	世界貨幣	世界货币
100-09	Maßstab der Preise	價格標準	價格の本位	價格の本位	價格の度量標準	价格标准
100-10	Scheidemünze	補助貨幣	補助貨幣	補助貨幣	補助貨	辅币
101-06	Handelsbilanz	貿易の差額	貿易の差額	貿易的差額	貿易差額	贸易差額
103-05	Nationalarbeit	国民的労働	国民労働	國民勞動	各国の労働	本国劳动
103-08	nationale Zirkulationssphäre	国民の流通界	国民の流通領域	國民的領域	各国の流通部面	国家的流通领域
103-14	Ueberfülle	貯水池	貯水池	貯水池	貯水池	库

(盛 福剛：東北大学大学院経済学研究科)